



# ユネスコスクール便り

No.92

令和2年 7月 2日

大牟田市I社コスクール  
担当者通信

つながりを大切にし、  
かかわりを深める児童生徒の育成



ユネスコスクール便りでは、各学校の特色あるSDGs/ESDの実践事例を紹介しています。実践事例では、目指す子どもの姿、学習活動、子どもの意識と行動の変容などが紹介され、ESDを通しての子どもの学びの姿が明らかにされています。このような事例をもとに、自校の取組について、ESDを通して子ども達が何をどのように学ぶのか、どのような資質・能力が育つのか、見つめ直し、取組のより一層の充実を図るきっかけにさせていただきたいと思えます。

## 特色ある実践事例の紹介

※各校の実践の写真は、昨年度のものに掲載しています。

### 白光タイム・高齢者疑似体験を通して 白光中学校



白光中学校では、白光中学校版SDGsの「3：すべての人に健康と福祉を」「11：住み続けられるまちづくりを」の二つの視点から、1年生では3学期に高齢者疑似体験を行っています。体験のためには、疑似体験セット（目を見えにくくするゴーグル、耳を聞こえにくくするイヤーマフ、腰を曲がった状態にする前屈み疑似体験ベルト、関節の動きを制限する肘膝サポーター、歩行中に負担のかかった体を調節する折りたたみステッキ）を着用します。生徒たちはこのセットを着用しただけで恐怖を感じたようです。着用して歩行すると体を思うように動かすことができず、よろよろとしていました。

体験を通して、「最初は怖くて一歩が出ませんでした。実際に運動機能、視力、聴力が低下していると、日常生活に不便が生じることが実感でき、高齢者の方の気持ちよく理解できた。」との感想が聞かれ、高齢者の方の立場や気持ちを考え、優しく親切に接する行動につなげることができました。



高齢者疑似体験をする生徒

### 食を通して、玉川のよさを再認識 玉川小学校



玉川小学校では、友達、家族、地域の方々など、「人と人の関わり」を大切にしながら、食生活に関心を持ち、自ら食に関する考えを深め、心身ともに健康な子どもの育成を目指して「食育」の学習を進めています。

5年生では、「米作りに挑戦しよう」というテーマで、地域の方とともに稲作の栽培活動を行い、収穫した餅米で「親子福祉餅つき大会」を行います。田植え、観察・草取り、稲刈り、餅つきなど、手作業で行う体験を通して米作りの苦労や努力を感じ取ったり、地域の方への感謝の気持ちを育んだりしています。他学年でも、玉川の自然を生かして食育を進めています。



稲刈りに取り組む子ども



### 高齢者パワーアップ大作戦 駛馬小学校

5年生は、駛馬校区の高齢化率の高さから、「高齢者が安心して、楽しく住み続けるために自分たちができることは何か」という課題をもち、地域の民生委員や公民館の方に校区の現状を聞きました。そして、高齢者の方に元気を届けたいという思いを実現するため、「高齢者パワーアップ大作戦」を考え、高齢者の方々と交流する内容や方法を話し合いました。そして、校区の一人暮らしの高齢者宅を訪問する計画を立て、準備を進めました。当日は4・5・6年生でグループをつくり、PTA地域委員の方々、公民館や民生委員の方々と連携しながら、校区の一人暮らしの高齢者のお宅を訪問しました。昔遊びやゲームと一緒に楽しんだり、全校児童が書いた手紙をプレゼントしたりしました。子どもたちはこの学習を通して、これからも高齢者の方々とつながりを深め、だれもが安心して暮らせる笑顔あふれる校区にしていくために、自分ができることを実行していきたいと実践意欲を高めることができました。



高齢者宅を訪問する子どもたち